

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2015年3月8日聖日礼拝

---

使徒の働き連講51

「神の中に生き、動き、在る」

使徒の使徒17:16-29

竿代照夫牧師



# 聖書朗読

## 新約聖書

### 使徒の働き 17章 16節-29節

聖書本文は新改訳聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp ~ / 第三版の聖書はp ~

16 さて、アテネでふたたりを待っていたパウロは、町が偶像でいっぱいなのを見て、心に憤りを感じた。

17 そこでパウロは、会堂ではユダヤ人や神を敬う人たちと論じ、広場では毎日そこに居合わせた人たちと論じた。

18 エピクロス派とストア派の哲学者たちも幾人かいて、パウロと論じ合っていたが、その中のある者たちは、「このおしゃべりは、何を言うつもりなのか」と言い、ほかの者たちは、「彼は外国の神々を伝えているらしい」と言った。パウロがイエスと復活とを宣べ伝えたからである。

19 そこで彼らは、パウロをアレオパゴスに連れて行ってこう言った。「あなたの語っているその新しい教えがどんなものであるか、知らせていただけませんか。

20 私たちにとっては珍しいことを聞かせてくださるので、それがいったいどんなものか、私たちは知りたいのです。」

21 アテネ人も、そこに住む外国人もみな、何か耳新しいことを話したり、聞いたりすることだけで、日を過ごしていた。

22 そこでパウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつい方々だと見ております。

23 私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇があるのを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。

24 この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。

25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。

26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。

27 これは、神を求めさせるためであって、もし探し求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。

28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその子孫である』と言ったとおりです。



29 そのように私たちは神の子孫ですから、  
神を、人間の技術や工夫で造った金や銀  
や石などの像と同じものと考えてはいけ  
ません。

## 東日本大震災から四年目を覚えての祈りのお願い

- (1) 主の愛と希望が被災された方々に届くように。心のケアを提供する働き人がさらに起こされるように。
- (2) 支援活動を続けている教会、団体、地域ネットワークのために。
- (3) 全国のキリスト者が原発事故による放射能被害が続く福島の諸教会と共に生きる意識をもって連帯し、支え続けられるように。
- (4) 被災地域に福音が広がり、教会が生まれていく中で、諸教会・団体間のよき連携がなされ、主にある一致が地域社会に証しされるように。
- (5) 被災地以外の地域でも、災害時にキリストの愛を分かち合う準備がなされ、日本のリバイバルへの道備えがなされるように。
- (6) (中目黒教会として協力している)「ふくしま教会復興支援ネットワーク」による「キッズケアパークふくしま」完成のために。

# 説教

使徒の働き連講51

「神の中に生き、動き、在る」

使徒の使徒17:16-29

竿代照夫牧師



# 主テキスト

**「私達は神の中に生き、動き、また存在しているのです。」**

**（使徒 17 : 28）**

# 先回の復習

## 「毎日聖書を調べた人々」(地図参照)



イルリコ州

マケドニヤ州

ジュンブ

エグナティア街道

テサロニケ

アポロニヤ

アンピポリス

ベレヤ

ペラ

アカヤ州

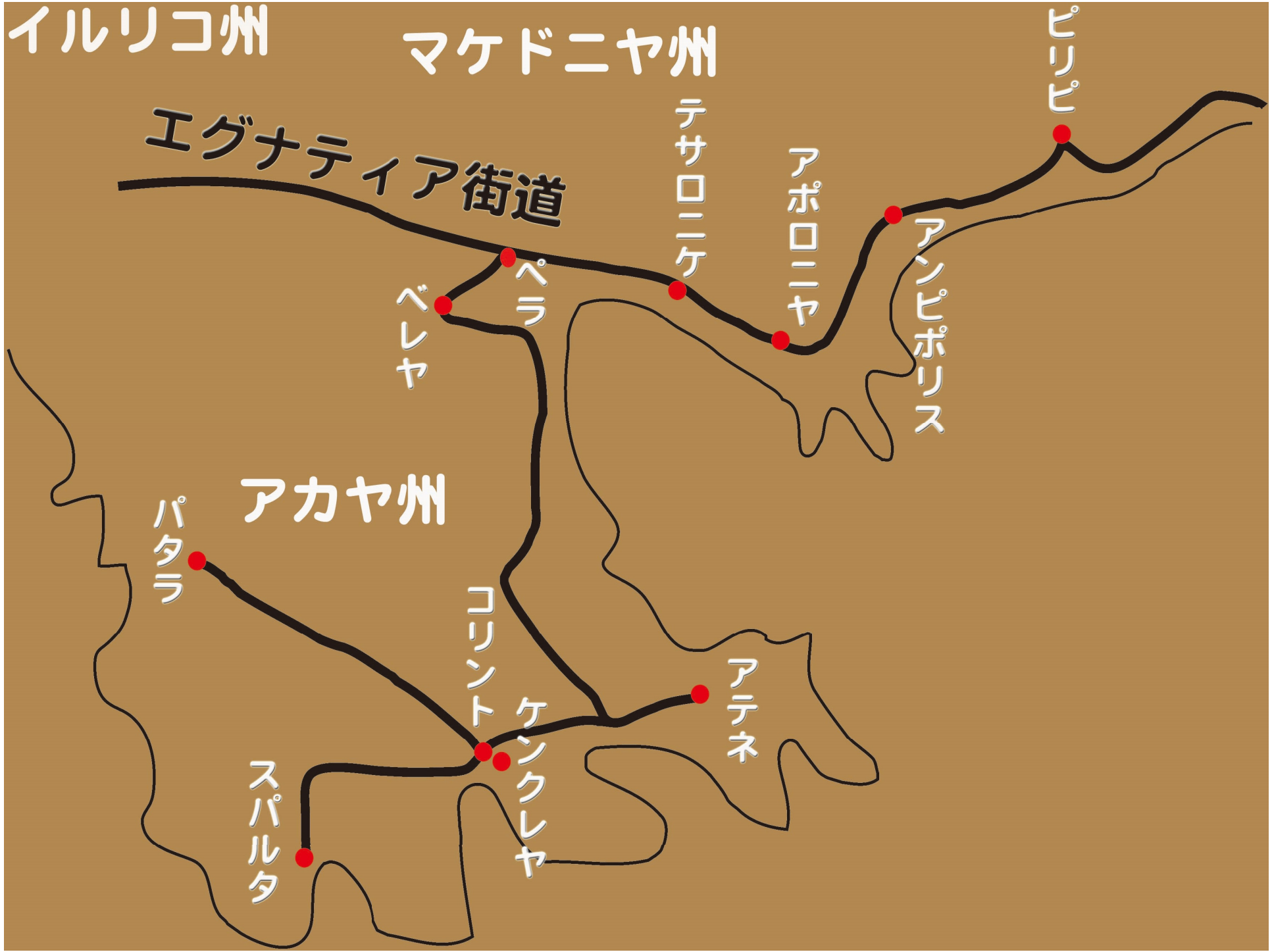
パタラ

コリント

ケンクレヤ

アテネ

スパルタ



## **A. アテネでの討論（16 – 21節）**

### **1. アテネについて**

- ・ベレヤからアテネへ：300～400km**
- ・栄光の歴史：ギリシャ諸都市の  
指導的地位**
- ・衰えたアテネ：ローマによる支配**
- ・町の威容（アテネの地図および写真参照）**







**[アクロポリスから眺めたアレオパゴスの丘]**

# **A. アテネでの討論（16 – 21節）**

## **2. アテネでのパウロ**

- ・パウロの感想：偶像に憤激**
- ・パウロの議論：福音提示と偶像批判**

## A. アテネでの討論（16 – 21節）

### 3. 哲学者たちの評論

- 哲学者たち

  - （エピクロス派とストア派）の興味

- 彼らの評価：

  - パウロを「おしゃべり」と嘲笑

- アレオパゴス

  - （最高評議所）に連れて行く

- テーマ設定：

  - パウロの新しい教えとは何か

**B . アレオパゴスでの説教 :**  
**前半 ( 22 29 節 )**

- 1 . 「知られざる神」からの序論**
  - ・ **街歩きの観察を緒口に**
  - ・ **「知られざる神に」とは真の神**

## **B . アレオパゴスでの説教： 前半（ 2 2 2 9 節 ）**

### **2 . 神は創造者である**

- ・ 場所や建物に囚われない**
- ・ 人間に支えられない**
- ・ 人間はみな同じ**
- ・ 神を見出すことは可能**
- ・ 神は身近な存在**

**おわりに**

**神の圧倒的存在を感謝しよう**